

特定非営利活動法人
チャイルド・フアンド・
ジャパン
2021年度
年次報告書

ChildFund
Japan

Annual Report

2021



理事長挨拶

本年度も、多くの皆さまのご支援とご協力を賜り、ここにチャイルド・ファンド・ジャパンの一年間の活動をご報告できることに深く感謝申し上げます。私は、この度、敬愛する長山信夫先生の理事長ご退任を受け、新理事会より理事長に選出されました。皆さまのお支えとご協力によって、理事長として与えられた務めを誠実に果たしたいと願っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、2021年度は、デルタ株、オミクロン株といった変異種のまん延が世界中の人々に影響を与えるとともに、年度末にはウクライナの人道危機が発生するという多難な一年となりました。そうした中でも、チャイルド・ファンド・ジャパンは、皆さまに支えられ、アジアでの支援活動を継続することができ、また、ウクライナの子どもたちへも多くの支援を届けることができました。あらためて感謝申し上げます。

コロナ禍、ウクライナ危機ともに収束が見えない中、これからも難しい状況での支援活動が続きますが、皆さま、引き続きのご支援を何卒よろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長
たかはし じゅん
高橋 潤

役員

2022年3月31日現在

理事長	長山 信夫	日本基督教団安藤記念教会牧師、同付属幼稚園園長
理 事	福嶋 美佐子	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 支援者代表
理 事	岡田 昭人	東京外国語大学教授
理 事	小澤 淳一	青山学院初等部宗教主任
理 事	鷲見 八重子	和洋女子大学名誉教授、国連NGO国内女性委員会委員長
理 事	高橋 潤	日本基督教団銀座教会牧師
理 事	原島 博	ルーテル学院大学教授
監 事	向山 功	株式会社向山商会代表取締役社長
監 事	脇屋 元	立花証券株式会社取締役

目次

理事長挨拶／役員	02	事業報告 ベトナム／その他の支援プロジェクト	16
チャイルド・ファンド・ジャパン 事業概要	03	緊急・復興支援事業	17
チャイルド・ファンド・ジャパンの1年	04	広報・啓発・提言事業	18
地域開発支援事業	06	様々なご支援・ご参加方法	20
事業報告 フィリピン	08	チャイルド・ファンド・アライアンス	21
事業報告 ネパール	10	数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年	22
事業報告 スリランカ	14	2021年度会計報告	23

チャイルド・ファンド・ ジャパン 事業概要

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。活動を通じ人と人が出会い、お互いに理解を深め、つながることを大切にしています。



1 地域開発支援事業

スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長することができるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたちには、教育や保健・栄養など、一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指して、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的視野にたった支援を行います。2021年度は、フィリピン10カ所、ネパール1カ所、スリランカ3カ所で支援を行いました。

支援プロジェクト

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。2021年度はフィリピンで1件、ネパールで4件、スリランカで1件、ベトナム、インドネシア、ラオスで各1件のプロジェクトを実施しました。

2021年度の活動の概要

今年度は新しい3カ年の中期計画(2022年4月～2025年3月)の1年次となりました。この3カ年で、チャイルド・ファンド・ジャパンは、①「地域開発支援」をより効果的に実施できる、②子どもも参加・協力する機会を提供する、③職員にとって働きがいのある、④コロナ禍に負けない、組織となることを目指します。今年度は主に以下の点を重点的に行いました。

1. 「地域開発支援」の強化

支援活動についての議論を繰り返し行い、「子どもを見守るまちづくり」としての「地域開発支援」をより深く職員が理解し、報告会などで皆さまへもお伝えすることができました。また、ロジカル・フレームワーク※の導入をフィリピン事務所で進め、地域開発支援の強化をはかりました。

※支援活動の目標や成果、活用できる資金や人的資源、外部要因などを整理した図で、支援活動を管理するために用いる。

2 緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援します。2021年度は、長野県での令和元年台風19号被災者支援、ウクライナ緊急支援の2件を実施しました。(新型コロナウイルス緊急支援については、スポンサーシップ・プログラムの支援活動の中で実施)

3 広報・啓発・提言事業

支援地の実態や団体の支援活動を広めたり、子どもを暴力から守るための制度づくりに取り組んだりする事業です。OSEC(子どもへのオンライン性搾取)をなくすための啓発、政策提言活動を行ったほか、団体の活動において子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、組織体制の強化を進めました。

2. 多様な協力者の巻き込み

活動全般において、子どもも大人も協力者にしていくことを目指しました。特に、OSEC(子どもへのオンライン性搾取)の啓発と署名キャンペーンでは大学生と一緒に活動を進めました。

3. 業務の見直し・効率化

情報管理システムを刷新し、団体内の業務を効率化するとともに、支援者の皆さまへより正確・迅速に情報をお届けできるようにしました。

4. コロナ禍の組織基盤の拡充

アライアンス内の連携により、これまででない国(インドネシア、ラオス、ウクライナ)への支援を行うことができました。また、オンラインを活用し、理事会や総会の開催・運営を効率化させることができました。

チャイルド・ファンド・ ジャパンの1年

1年を振り返って

昨年に引き続き、コロナ禍での活動となった2021年度。感染予防対策、休校中の教育支援などに取り組むとともに、感染が落ち着いた時期には、子どもたちが集まる研修活動なども実施しました。また、年度末にはウクライナの人道危機が発生し、緊急支援に取り組みました。一方、日本においては、OSECのアドボカシー活動、ウェビナーの開催、各種メディアでの広報にも力を入れていきました。



4月



コロナ禍の支援活動、2年目へ

2019年12月に確認され、その後世界中で感染拡大した新型コロナウイルス。2021年度も、変異株のまん延など、世界中が大きな影響を受けました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、引き続き、感染予防、食糧支援、教育支援などを行い、コロナ禍にあっても子どもたちが希望をもって生きていけるよう活動しました。

5月

青山学院大学 サービス・ラーニング参加

青山学院大学のサービス・ラーニング※に講師として参加し、コロナ禍の支援活動やOSEC（子どもへのオンライン性搾取）について取り上げました。参加した学生さんはOSECに強い関心を持ち、学内での調査活動、動画を使った情報発信などをしてくれました。

※教室での学習とそれを生かした社会貢献活動を組み合わせた学習方法



6月



ネパールで土砂崩れと 洪水が発生

6月16日、ネパールのシンドゥパルチョーク郡において、連日の大雨による洪水や土砂崩れが発生し、死亡者や行方不明者、家屋の損壊等が発生しました。支援地域の子どもやその家族に人的な被害はありませんでした。被害があった世帯には、地元商店で食糧と引き換えることができるクーポンを配布するなどの支援を行っています。

2021▶

4月

5月

6月

7月

8月

9月

4月

訪問での活動報告会、徐々に再開

例年、ご支援いただいている学校・企業・団体にお伺いし、活動の報告会を行っていましたが、2020年度からはコロナ禍によって、対面での報告会が難しくなりました。今年度は、感染が落ち着いた時期を中心に、徐々に対面での報告会を再開し、オンラインツールも並行して活用していきました。

4月

「新型コロナウイルスから子どもたちを守りたい」 著名人の方からのメッセージキャンペーン継続

昨年度より行っている、著名人の方から子どもたちへの応援メッセージをいただくキャンペーン。今年度は、プロサッカー選手の香川真司選手などからメッセージをいただきました。



6月

チャイルド・ファンドが ラグビーワールドカップ2021の チャリティーパートナーに任命

チャイルド・ファンドがラグビーワールドカップ2021※のチャリティーパートナーに任命されました。観戦チケット販売時に寄付を受け付け、弱い立場にある女の子や女性に向けて、困難を乗り越え、リーダーとして活躍するためのスキルを身につけるプログラムを行います。

※新型コロナウイルスの影響により2022年10月に開催



7月

フィリピン火山噴火

フィリピンの首都マニラの南60kmほどにあるタール火山が活動を活性化させ、7月1日には小規模な噴火も発生しました。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援地域のチャイルドや家族に人的な被害はありませんでした。

11月 オンライン活動報告会開催

11月20日に活動報告会をオンラインにて開催しました。支援者の皆さまに向けて、コロナ禍の支援地域の状況や支援活動について、現地のスタッフからの動画なども交えながらお伝えしました。また、青山学院大学の学生を招き、OSECの現状や取り組みについてお伝えしました。



予防キャンペーンTシャツや衛生用品を配布

2月



ネパール 「災害に強い学校づくりプロジェクト」 校舎完成!「子どもにやさしい 学校づくりプロジェクト」スタート!

2021年2月より進めていた建設作業が完了し、2階建て鉄筋コンクリート造の地震に強い校舎が完成しました。2022年3月からは、新たに「子どもにやさしい学校づくりプロジェクト」として、ネパールのゴルカ郡にて、校舎建設・教育支援事業をスタートさせました。

12月



12月 「杉並区民の手で ネパールに学校を!」 キャンペーン第12弾

書き損じハガキや未使用の切手を活用して、ネパールの子どもの学ぶ環境を整える「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーン。第12弾を実施し、皆さまからのご協力により、479,805円分のご寄付をいただきました。



2月



©Maxim Dondyk, n-ost

フィリピンで台風22号が発生し、 各地で大きな被害

12月16日～17日にかけて、大型の台風22号がフィリピン中部のビサヤ地域を直撃。20万世帯、78万人以上がこの台風の影響を受け、洪水、家屋の倒壊、停電、学校の一時休校などが各地で発生しました。支援地域のチャイルドやその家族に人的な被害はありませんでしたが、食糧支援や、倒壊した家屋の再建支援などを行いました。

12月 ラジオ番組で 書き損じハガキ募集を紹介

広報担当のスタッフが、J-WAVE、CROSS FMのラジオ番組に出演しました。団体の活動や書き損じハガキの募集についてリスナーの皆さんへ紹介しました。また、TOKYO FMでも、団体の書き損じハガキ募集を取り上げていただきました。

ウクライナ緊急支援開始

2022年2月24日、ロシア軍がウクライナへの侵攻を開始。チャイルド・ファンドは、アライアンスで連携し、緊急支援をスタートさせました。チャイルド・ファンド・ドイツ、WeWorld(イタリア)が中心となり、ウクライナ国内、隣国モルドバにおいて、食糧や医薬品、生活必需品といった緊急支援物資の提供、戦争の恐怖にさいなまれている子どもたちの心のケアなどを行っています。

10月

11月

12月

2022▶

1月

2月

3月

12月



スリランカのモノラガラ県で スポンサーシップ・プログラムを スタート

スリランカ東部ウヴァ地方に位置するモノラガラ県において、スポンサーシップ・プログラムを開始しました。乾燥地域で、水と衛生、栄養、教育面で課題を抱える子どもたちへ、成長段階に合わせた支援を行っていきます。

2月



OSECをなくすためのオンライン署名 スタート! ウェビナーも開催

日本においても支援地域においても深刻さを増す「子どもへのオンライン性搾取(OSEC)」。この問題を解決するための法改正などを求めて、オンラインによる署名活動をスタートさせました。さらに、OSECをテーマとしたウェビナーも開催。劇団 だるま座さんの紙芝居を交えながら、OSECの現状や課題、日本における法整備などについてお伝えしました。

3月

テレビ朝日の報道番組に WeWorldのスタッフが出演

ウクライナの緊急支援に現地で携わるWeWorldのスタッフが、テレビ朝日の報道番組「サタデー・ステーション」の取材を受けました。現地の子どもの厳しい状況について、特に精神的な不安を抱えている子どもが多い実態などをお伝えしました。

3月

Yahoo!ニュースで、 フィリピンの対面授業休止 の記事が配信

広報担当スタッフが執筆した記事がYahoo!ニュースで配信されました。コロナ禍で長い間対面授業が休止されているフィリピンの子どもの状況を広く伝えました。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/15cc37d388896941977a0e30373301d2f5e9c43d>

地域開発 支援事業

子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う「スポンサーシップ・プログラム」、貧困に起因する様々な問題において特定の開発課題に応える「支援プロジェクト」を実施しています。



チャイルド・ファンド・ジャパンが取り組む6つの分野

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、2021年度～2023年度の3ヵ年中期計画において、地域開発支援事業の強化をはかり、活動の分野を再整理して、以下のようにまとめました。これまでの事業を継承しつつ、より効果的・包括的な支援活動を行っていきます。

母子保健	保健研修などを通して、妊婦と乳児の健康を守ります。	乳幼児栄養	栄養価の高い食事の指導、家庭菜園支援などを通して、乳幼児の栄養改善を行います。	教育	学用品支給、先生への研修などを通して、子どもたちが学校に通い、質の高い教育を受けられるようにします。
青少年育成	職業訓練、就業支援などを通して、青少年が自立していけるように支援します。	子どもの保護	保護者への研修や地域への啓発を行い、子どもたちがあらゆる暴力から守られるようにします。	アドボカシー	子どもの権利に関して、行政や政府へ働きかけ、制度や法律を整えていきます。

Sponsorship Program スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長できるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたち(チャイルド)には、教育や保健・栄養など一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指し、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的な視野にたった支援を行います。

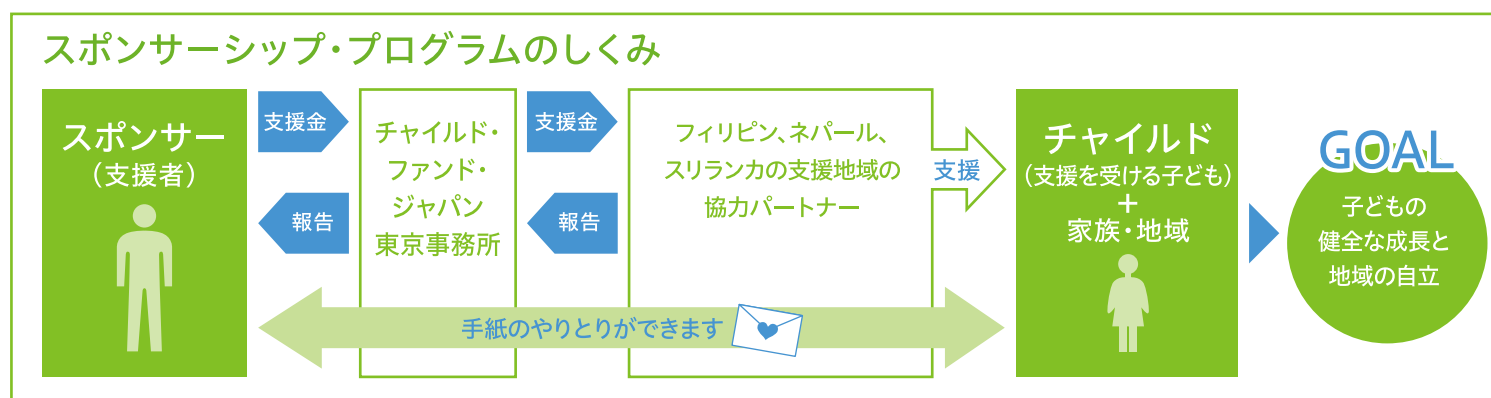
スポンサーシップ・プログラムが 目指す2つのゴール

GOAL 1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。

GOAL 2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、小規模事業資金の融資などを行っています。



Special Assistance Program

支援プロジェクトについて

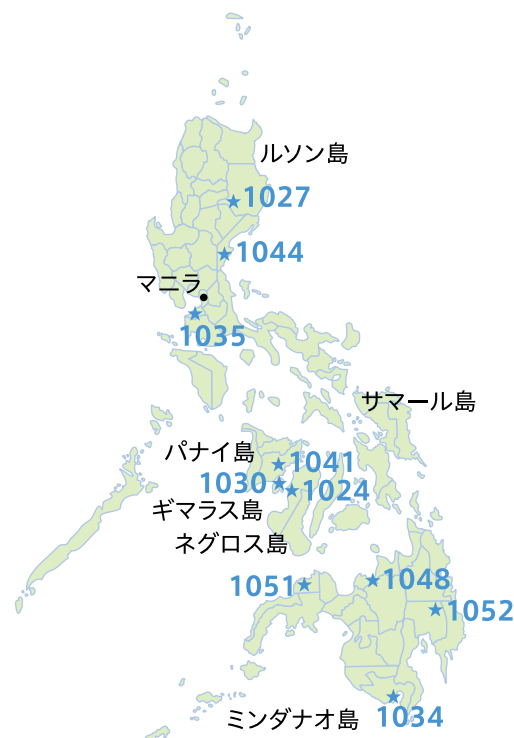
支援プロジェクトは、貧困に起因する様々な問題のうち特定の開発課題に応える事業です。学校環境整備、子どもの権利、児童労働、早期婚、保健、栄養、安全な水へのアクセス、収入向上、小規模ビジネス、協同組合事務所、少数民族など、その地域、環境において必要とされる課題に取り組んでいます。スポンサーシップ・プログラムと相互補完的に、子どもたちの健全な成長を支えています。

2021年度 スポンサーシップ・プログラム支援地域一覧

フィリピン

プログラム番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
1024	中部ビサヤ諸島 西ネグロス州	297名	2019.6~2024.5	The Congregation of the Augustinian Missionaries of the Philippines
1027	北部ルソン イサベラ州	426名	2019.6~2024.5	Pamanang Panuluyan ng La Salette, Inc.
1030	中部ビサヤ諸島 ギマラス州	407名	2019.6~2024.5	Community Partnership for Integral Child Development Center
1034	南部ミンダナオ 南コタバト州	442名	2019.6~2024.5	Notre Dame Business Resource Center Foundation, Inc. (NDBRCFI)
1035	北部ルソン カビテ州	373名	2016.6~2026.5	Magdalena Human Development Foundation
1041	中部ビサヤ諸島 イロイロ州	320名	2018.6~2023.5	Janiuay Calvario Community Center, Inc.
1044	北部ルソン オーロラ州	450名	2019.6~2025.5	St. Francis Center - Integrated Arera Development for Aurora, Inc.
1048	南部ミンダナオ 東ミサミス州	300名	2018.6~2026.5	Pedro Calungsod PEACE Center
1051	南部ミンダナオ 北サンボアンガ州	412名	2019.6~2024.5	Mindanao Resource Institute for Community Empowerment Inc. (MINRICE)
1052	南部ミンダナオ 北ダバオ州	200名	2016.6~2025.5	Davao Medical School Foundation, Institute of Primary Health Care

計 3,627名



ネパール

プログラム番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
2061	シンドウパル チョーク郡	568名	2016.5~2024.3	Tuki Association Sunkoshi

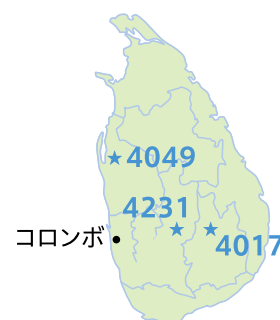
計 568名



スリランカ

プログラム番号	事業地	チャイルド支援数*2	事業期間	協力パートナー
4049	プッタラム県	132名	通年	VOICE Area Federation Puttalam
4231	ヌワラエリヤ県	162名	通年	T-Field Child Development Federation
4017	モナラーガラ県	44名	通年	ChildFund Sri Lanka直轄

計 338名



*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。 *2.数字は2022年3月31日時点。

2021年度
支援チャイルド数

3,627

支援対象

フィリピンの各支援地域のチャイルド3,627名と
その家族約15,000名(3,523世帯)

事業費

114,775,000円

事業期間

5年毎の長期(毎年6月～5月)

フィリピンでは、ルソン、ビサヤ、ミンダナオ地方の10ヵ所において、36の村に暮らす3,627名のチャイルドをスポンサーシップ・プログラムを通して支援しました。支援プロジェクトと合わせて、新型コロナウイルスの感染予防やワクチン接種の推進を行うとともに、長期化する自宅学習に対する支援、子どもの保護に関する支援を行いました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

チャイルドへの支援

フィリピンでは、2021年4月、9月、2022年1月に、新型コロナウイルスの感染のピークが訪れ、ロックダウンもたびたび実施されました。ワクチン接種もなかなか進まず、学校の対面授業休止が長期化する要因となりました。スポンサーシップ・プログラムでは、こうした状況をふまえ、子どもたちの自宅学習支援、感染予防対策などを中心に行いました。

自宅学習支援と感染予防対策

フィリピンの休校措置は、2020年3月に始まり、その後2020年10月に「モジュール学習」という自宅学習形式がスタートしました。学校で習っていない新しい事柄を、冊子の教材を自分で読み進めることで学ばなければならない、子どもたちは大きな困難を抱えるこ

ととなりました。

現地では、こうした子どもたちの自宅学習のサポートに力をいれました。具体的には、スタッフが子どもに面会してサポートする、子どもたちや親のチャットグループをつくって相談ができる環境を整える、自宅学習用の学用品の提供、オンライン学習用の機器やインターネット接続の支援などを行いました。



困難を抱えている子どもには、スタッフが直接面談してサポートしました

こうした支援を受けながら、子どもたちはコロナ禍でも学習を継続することができ、今年度は359名が小学校、422名が中学校、290名が高等学校を修了する見込みとなりました。

また、子どもたちの中には、自分たち自身で問題の解決に取り組もうとする姿が随所で見られました。自宅学習で分からないところについてお互いに助け合う、マスクを自分たちでつくるといった身近な取り組みをはじめ、オンライン授業に参加するための携帯電話を配布するために寄付集めをし、さらにコロナ禍の不安を話し合う場をつくるといったものも見られました。こうした取り組みを通して、子どもたちはリーダーシップやコミュニケーションの能力を高め、自信をつけていくことができました。



コロナ禍での感情のコントロールについて話し合う子どもたち

家庭や地域への支援

ロックダウンの影響などで、現地ではより一層経済的に苦しい家庭が増える中、チャイルド・ファンド・ジャパンでは、適宜現金支給の支援も行いました。また、昨年度も有効だった家庭菜園については、種子の提供といった支援を継続し、家計が苦しい中でも食糧を確実に得ることができるように支援しました。

また、地域においては、行政の支援情報をお互いに共有するなど、人々がお互いにつながって協力し合う姿が見られました。現地スタッフはこうした動きをさらに後押しし、地域の力を高めることができるようにしています。



住民組織も資金の貸し付けなどで地域の人々の生活を支えています

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

地域で支える コロナ禍の子どもの保護プロジェクト

協力パートナー	フィリピンの各支援地域の協力団体
支援対象	10カ所の支援地域のチャイルド3,627名とその家族3,523世帯、チャイルド以外の地域の子どもたち
事業期間	2021年4月1日～2022年3月31日
支援規模	3,057,000円

背景と事業目的

新型コロナウイルスのまん延が続く中、現地ではウイルスやワクチン接種に関する知識の周知が重要な課題となっています。また、コロナ禍で経済的に厳しくなる家庭が増え、子どもへの家庭内暴力のリスクも高まっています。本プロジェクトでは、コロナ禍におけるこうした問題を軽減するための支援活動を行いました。

活動概要と成果

プロジェクトでは、子どもたちを暴力から守る「子どもの保護」や、ワクチン接種、心のケアに関するパンフレットなどを作成し、子どもたちや家族に配布しました。配布の際には、スタッフが内容を説明するなどして、理解が深まるようにしています。

また、子どもたちの心のケアをより効果的に行うため、現地協力

団体のスタッフ18名がカウンセリング手法のトレーニングを受けました。

こうした活動によって、コロナ禍においてもチャイルドの家庭では、暴力の事例をごく少数に抑えることができました。また、発生してしまったケースにおいてもスタッフが適切に対処することで問題を解決することができました。

なお、プロジェクトでは、2021年12月に発生した台風22号の被災者への支援も行いました。食糧、屋根用トタン板などの配布、現金給付、心のケアなどを行い、生活再建を支援しました。



ワクチンのパンフレットは学校の先生などにも配布しました

NEPAL ネパール

2021年度
支援チャイルド数

568

支援対象

シンドウパルチョーク郡の公立学校6校のチャイルド568名、教師105名、
学校運営委員会(SMC)・PTA108名、およびダーディン郡の公立学校19校の
生徒、教師、学校運営委員会(SMC)・PTA

事業費

35,338,000円

事業期間

5年毎の長期(毎年4月～3月)

ネパールでは、スポンサーシップ・プログラムを通して、子どもたちが学校に通い続け、質の高い教育を受けることができるように支援を行うとともに、依然として続く新型コロナウイルスまん延を受けて、感染予防のための衛生用品の配布なども行いました。また、4つの支援プロジェクトを実施し、耐震性の高い校舎の建設や防災教育、先生の指導力向上のための研修などを行っています。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

ネパールでは、2021年4月～5月にかけて新型コロナウイルスの感染が急拡大し、全土でロックダウンが実施され、学校も休校となりました。解除されたのは9月で、4カ月にわたる長期のロックダウンとなりました。その後、感染状況は落ち着きを見せ、様々な活動が再開されましたが、2022年1月から再び感染が急拡大し、学校の休校、移動の規制、大人数のイベントの規制などが行われました。2月中旬以降は感染状況も収まり、規制が解除されています。

ワクチンについては、地方に住む人々のワクチンに対する知識不足や、接種会場まで遠いなどの理由で、接種がなかなか進まない状況がありましたが、2022年6月時点では約70%の接種率となっています。

こうした状況の中、現地ではロックダウンにともなって事務所を閉鎖しなければならなくなったり、学校の休校によって、先生や学校運営委員会に対する研修が実施できなくなったりといった影響が発生しましたが、現地スタッフが在宅勤務をして業務を継

続したり、規制が解除された期間を活用して研修を実施したりと、困難な状況の中でも支援を継続していきました。



スポンサーへのグリーティングカードを書く子どもたち

支援内容と成果

子どもたちが学校に通い続けるための支援

シンドウパルチョーク郡の学校6校で、幼稚園から10年生までの生徒に、文房具、制服、スクールバッグなどの学用品を配布しました。学用品が配布されたことにより、家庭の経済的負担が軽減されるとともに、学習への前向きな気持ちが子どもたちに生まれ、休まず授業に出席したり、家庭学習にしっかりと取り組んだりといった様子が見られました。また、そのような子どもたちの姿勢を見た保護者も、それを応援するように、子どもたちの教育に対して協力的になりました。

また、成績や出席率に改善が見られた生徒に対して表彰を行いました。「成績が上位である」「全日程出席した」という評価ではなく、「改善があった」ことを評価することで、子どもたちの意欲につながっています。

子どもクラブへの支援

ネパールでは、生徒の代表でつくられる「子どもクラブ」の活動も支援しています。今年度の活動の例として、世界子どもの日(11月20日)に合わせて、啓発のパレードを行いました。225名の子どもたちと17名の先生が参加したこのパレードでは、子どもの権利について訴えるとともに、支援地域で特に問題となっている、児童婚や児童労働などの防止についても地域住民に訴えています。

また、子どもクラブや学校運営委員会などが協力し、校内で起こる暴力などから子どもたちを守るための「子どもの保護方針」を作成しました。今年度は2校で保護方針が完成し、学校の承認を受けることができました。



オリエンテーションを受ける子どもたちと保護者



学用品を受け取った子どもたち



子どもクラブが企画したパレードの様子

新地域でのオリエンテーション

シンドウパルチョーク郡では、皆さまからのこれまでのご支援によって、学校の教育能力や子どもたちの出席率の向上などが見られ、今後それを学校や地域の人々が維持していくことができる体制が整いつつあります。こうした状況をふまえ、チャイルド・ファンド・ジャパンでは、スポンサーシップ・プログラムによる支援地域を、より支援を必要としているダーディン郡へと段階的に移行させることとしました。

2021年度は、ダーディン郡での活動を始めていくにあたって、地域の行政、学校に向けたオリエンテーションを行い、子どもたちの学習成果や出席率、退学率などに関して、共通の課題意識をもつようにしました。また、新しい現地協力団体PRAYASと綿密に連携を取り、今後の活動計画を策定しました。

来年度からは本格的にダーディン郡でスポンサーシップ・プログラムを開始する予定です。

子どもたちの声

マヒマ — 子どもクラブの議長

私たちの学校では、チャイルド・ファンド・ジャパンと協力団体TUKIのサポートを受けて、学校の「子どもの保護方針」をつくることができました。私たちにとってはとても大きな成果です。子どもクラブの議長として、これから校長先生などと連携し

て、この方針がしっかりと実施されていくようにしていきたいです。また、この方針が他の生徒たちにもよく理解してもらえるように、子どもクラブの会議で議論をしていきたいと思っています。



Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト(第2期)

協力パートナー

TUKI (Tuki Association Sunkoshi)

*子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO

支援対象

シンドゥパルチョーク郡の公立校11校の生徒1,880名、教師174名、
学校運営委員会(SMC)・PTA役員196名

支援規模

30,187,000円

(フェリスモ「地球村の基金」からの助成金を含む)

事業期間

2021年4月1日～2022年3月31日

組みによって、子どもたちの登校の意欲が増し、休校期間が5ヵ月間あった中でも、出席率が5%向上しました。

また、学校における子どもの保護をより一層推進し、校内の暴力などを報告できる相談箱を設置しました。あわせて、子どもたちからの投書があったときに、報告の系統・連携の方法が明確になるよう校内委員会も設置されています。

背景と事業目的

このプロジェクトは、学校や地域の人々とともに、教育を中心に子どもが健全に成長できる環境を整えることを目指しています。「生徒の学力と出席率の向上」「学校の環境整備」「先生や学校運営委員会の能力強化」などの支援を行っています。

活動概要と成果

新型コロナウイルスの感染が広がる中、衛生用品の配布、予防のための正しい知識を広める研修などを行いました。また、学校に対してスポーツの備品を提供するなどし、子どもたちが興味に応じて課外活動に取り組める環境を整備しました。こうした取り



配布されたボールでバレーボールをする子どもたち

Special Assistance Program 2

支援プロジェクト 2

シンドゥパルチョーク郡での「子どもの安全と保護のための子どもにやさしい学校」能力強化プロジェクト

協力パートナー

TUKI (Tuki Association Sunkoshi)

*子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO

支援対象

シンドゥパルチョーク郡の公立学校9校の生徒1,536名、教師141名、
学校運営委員会(SMC)・PTA役員162名、地方行政官29名

支援規模

20,284,000円(チャイルド・ファンド・コリアからの助成金により実施)

事業期間

2020年5月1日～2022年12月31日

また、授業についていくことが難しい生徒を対象とした補習クラスには、想定していた380名を大きく上回る895名の子どもが参加しました。補習クラスに参加することで学力が向上することや、それを学校で表彰される喜びが、補習クラスへの参加を促しました。

教師への研修も引き続き行い、身近にある材料を使って教材をつくることができるようになりました。こうした子どもにやさしい指導法を取り入れる教員が64%から78%に増加しました。

背景と事業目的

子どもたちが質の高い教育を受けること、子どもの安全と権利が守られることを目的として、教室や図書室などの教育環境の改善、教員の能力強化などの支援を行っています。

活動概要と成果

子どもたちが安心して通うことのできる学校環境を整えるため、2校で個室のトイレを建設、4校で洗い場を設置、1校で安全な飲み水が飲めるタンクを設置しました。



トイレの脇には水飲み場もつくられ、きれいな水を使うことができるようになりました

Special Assistance Program 3

支援プロジェクト 3

災害に強い学校づくりプロジェクト(3年次)

(シンドゥパルチョーク郡における「被災学校の再建と防災能力強化」プロジェクト)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) ＊子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校3校の生徒300名、 教師・学校運営委員会(SMC)28名
支援規模	62,809,000円(外務省NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2021年2月17日～2022年2月16日

防災能力の強化については、学校防災研修を合計5日間、教員や学校運営委員会を対象に計24名に実施し、各学校で学校安全計画を策定することができました。シャンティ国際ボランティア会の協力の下、対象3校において防災紙芝居の研修も行い、子どもたちの防災意識を高め、災害時にとるべき行動への理解を促すことができました。

背景と事業目的

2015年の大地震で被災した学校で、防災能力の強化、災害時および平時における子どもの保護についての能力強化などを目的に支援を行っています。

活動概要と成果

対象校1校において、地震に強い校舎の建設を行い、無事に2階建て8教室の校舎が完成しました。校舎はフェンスで囲まれ、グラウンドはコンクリートで整備されているため、雨期などの環境の変化にも耐えることができる学校となっています。各教室にはろ過器を設置し、子どもたちと教員は、いつでも安全な飲み水を飲むことができました。



完成した校舎で子どもたちは元気に学んでいます

Special Assistance Program 4

支援プロジェクト 4

少数民族などの子どもの未来を開く 子どもにやさしい学校づくりプロジェクト(1年次)

(ゴルカ郡の先住民族やダリットなど、社会的に不利な立場の人たちが多く住む地域の学習環境改善事業)

協力パートナー	UNG(Unification Nepal Gorkha) ＊ゴルカ郡で教育支援や衛生事業を行う現地NGO
支援対象	ゴルカ郡の公立学校4校の生徒、教師、 学校運営委員会(SMC)、保護者1,179名
支援規模	3,666,000円(外務省NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2022年2月28日～2023年2月27日

活動概要と成果

2021年度は、校舎建設の対象となった小学校で、建設の準備作業を行いました。2022年4月以降、建設作業を進め、国の安全基準を満たす校舎および男女別のトイレや手洗い場、フェンスの建設などを進めます。

背景と事業目的

ゴルカ郡は、ダリット※や少数民族など、社会的に不利な立場の人たちが多く、学校の中退学も多い地域です。地震に強い校舎建設とともに、教職員への能力向上研修、保護者や自治体への働きかけを行い、地域が一体となった子どもにやさしい学校づくりを目指します。

※カースト制度に属さない不可触民とされる人々



教員経験のある本部職員も研修講師をつとめました

また、教員への研修を行い、ネパールの教育省が掲げる「子ども中心の能動的な学習法」について伝えました。4月以降もこうした研修を継続するとともに、保護者会の定期的な開催、学校運営委員会やPTAでの学校運営に関する議論などを支援し、学校、保護者、地域住民が主体的に教育へ関与していく環境をつくっていきます。

SRI LANKA

スリランカ

2021年度
支援チャイルド数

338

支援対象 プッタラム県、ヌワラエリヤ県、モナラーガラ県のチャイルド338名、
家族約1,300名
事業費 14,614,000円
事業期間 5年毎の長期(毎年7月～6月)

スリランカでは、乳幼児期・学齢期・青少年期の3つの成長段階に応じて、栄養・教育・ライフスキル、職業訓練といった包括的な支援を行っています。チャイルド・ファンド・インターナショナル(アメリカ)と連携して、これまでプッタラム県、ヌワラエリヤ県でスポンサーシップ・プログラムを実施していましたが、今年度からモナラーガラ県でもスポンサーシップ・プログラムを開始しています。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

スリランカでは、2021年5月頃、9月頃に新型コロナウイルスの感染が拡大し、その後も新規感染者数が下がりきらない状態が続きました。ワクチンについては、インドから提供される予定だったものが提供されなくなり、接種がなかなか進まない事態も起こりましたが、日本からの提供などによって接種が進みました。学校については休校措置と再開を繰り返しています。

現地では、こうしたコロナ禍の難しい環境の中、子どもたちを守るための活動を継続しました。

乳幼児期(0歳から5歳)

乳幼児期の支援としては、子どもたちが栄養のある適切な食事を取り、衛生的な環境で成長することができるよう、保護者に対して栄養や衛生の支援を行っています。例えば、ヌワラエリヤ県では、保護者ら692人が栄養と衛生に関する研修を受け、必要

な栄養がとれる食事の知識や衛生管理に関する知識を身につけました。

こうした活動は、まず母親リーダーが研修を受け、それを地域の保護者へ伝えるという形で行われています。地域の活動をリードする母親を育てることで、地域の力を高めるようにしています。



母親リーダーが衛生についての研修を受けている様子

学齢期(6歳から14歳)

新型コロナウイルスのまん延によって学校が断続的に休校となる中、現地では、地域行政の教育担当と連携し、ワークシートやワークブックなどの教材を開発して配布したり、インターネットに接続できる環境がない家庭に、技術的・金銭的な支援を行ったりしました。

また、先生に対して、ATLASと呼ばれる子ども主体の授業形式のカリキュラムを開発したり、数学や英語の指導法についての研修を行ったりし、学校再開時の授業の質改善にも取り組みました。こうした支援によって、特に遅れがちな子どもたちの成績に向上が見られました。



学用品の配布も行い、学校へ通うための経済的負担を軽減しました。

青少年期(15歳から24歳)

青少年期の若者に対しては、子どもたちが自立し、社会で生きていくことができるような支援を行っています。オンラインでの求職ガイダンスやカウンセリング、職業訓練の支援などを通して、若者の就業をサポートしています。

また、青少年期の若者たちは、地域をよりよくするための活動をリードしていく役割も担っています。今年度も、青少年グループが主体となって、子どもの保護や麻薬防止を訴える啓発活動、森林再生の活動などが行われました。



溶接の職業訓練に参加し、現場で生きるスキルを身につけています。

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

新型コロナウイルス対応事業

協力パートナー	T-Field Child Development Federation *紅茶農園の子どもたちと家族に対し、健康・教育面などの支援を行う現地NGO
支援対象	ヌワラエリヤ県の県総合病院とティー・プランテーション・エリアの33世帯 計約27,000名
事業期間	2021年5月～2022年1月
支援規模	1,131,000円(株式会社三村時計店様からのご支援により実施)

病院にそれらを提供しました。また、コロナ禍で収入の途絶えた貧困世帯に対しては、生計支援を行いました。各家庭と話し合い、養鶏、農業など、それぞれに適した支援計画を立て、継続的に収入が得られるように支援しました。

背景と事業目的

スリランカでは2021年4月～5月以降、それまで限定的だった新型コロナウイルスの感染範囲が全国規模となるなど、深刻な状況が続きました。治療に必要な機器が不十分な医療施設も少なくない中、医療体制はひっ迫するとともに、支援地域では日雇い労働者などが職を失い、子どもたちの健康や生活にも大きな影響を及ぼしました。プロジェクトでは、地域住民と子どもたちの健康と生活を守るため、医療施設や困窮家庭への支援を重点的に行いました。



酸素吸入を必要とするコロナ患者のために酸素ステーションを設置

活動概要と成果

支援地域の医療施設では、特に新型コロナウイルス重篤患者の治療に必要な酸素供給システムが不足していたため、地域の拠点

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

母子手帳で守る お母さんと子どもの健康プロジェクト

協力パートナー	ベトナムホアビン省(キムボイ県とタンラック県)の各人民委員会
支援対象	ホアビン省の母子14,000名
支援規模	789,000円
事業期間	2021年7月1日～2021年10月31日

スも行うことで、母子手帳の使い方や保健・衛生についての理解を深めてもらうことができました

背景と事業目的

本プロジェクトを実施しているベトナムのホアビン省は、山岳地方の少数民族が多く暮らす地域で、保健指標の改善が課題となっています。プロジェクトでは、母子手帳を活用した地域母子保健サービスの質の向上、保護者の母子保健に関する知識・理解の向上を目指しています。

活動概要と成果

保健省、ホアビン省保健局と連携して、母子手帳の内容を検討し、7,000部を作成しました。各ヘルスセンターに送付し、センター職員が妊婦さんに配布を行いました。配布時にはガイダン



作成・配布した母子手帳

その他の支援プロジェクト

安全な学校づくりプロジェクト／インドネシア

支援対象	西ジャワ州ボゴール県チビノン市15校の生徒5,490名と教師160名の計5,650名
支援規模	6,077,000円
事業期間	2021年11月1日～2022年10月31日

このプロジェクトの支援地域では、人口の90%以上が洪水や土砂崩れの被害を受ける可能性があるなど、自然災害に対するリスクが高くなっています。また、学校においては、防災について

の知識が十分でなく、中心都市から離れているために、災害が起きた際の公的支援の到着が遅れるリスクもあります。

プロジェクトでは、防災に関する研修などを通して、学校の教育活動に防災が適切に位置づけられ、子どもたちが安全・安心な学校環境で学ぶことができるように支援しています。

新型コロナウイルスの影響により、2022年初めまでは活動が制限されましたが、年度末にかけて本格的に開始し、ハザードマップづくりなどの研修を行いました。

障がいをもつ子どもへの教育環境改善プロジェクト／ラオス

支援対象	フアバン県ソップバオ郡15村の子ども1,418名と家族、村人
支援規模	6,340,000円
事業期間	2021年7月1日～2022年12月31日

本プロジェクトの支援地域はラオスの山岳地帯で、少数民族が多く暮らす地域です。言語の壁、高い中途退学率などの課題の

他、障がいをもった子どもたちが半数以下しか入学していないといった課題を抱えています。

プロジェクトでは、地元行政や学校、住民と協力して、障がいをもった子どもや先住民族の子どもなどが、適切な教育やケアが受けられるように、研修や施設設備などの支援を行いました。

緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。チャイルド・ファンド・ジャパンは緊急・復興支援のためのガイドラインに沿って、被害の規模や支援体制の整備状況などを踏まえて支援を実施しています。

令和元年台風19号被災者支援

Nagano

協力パートナー	シャンティ国際ボランティア会、ながのこどもの城いきいきプロジェクト
支援対象	長野市の被災した小・中学校6校の生徒2,050名
支援規模	1,781,000円
事業期間	2019年10月1日～2022年3月31日

活動概要と成果

被災地域の学校（小学校2校、中学校4校）において、教育活動を支援するための備品の提供を行いました。スポーツ用品、音響機材、農機具等を支援することで、子どもたちの教育活動を支えることができました。

支援活動の検証については、長野県立大学に委託して調査研究を行いました。コロナ禍により調査の中断を余儀なくされましたが、報告書が3月に完成し、長野市の関係部署や関係者に冊子版を配布しました。PDF版も2022年6月に団体HPで公開しています。

背景と事業目的

2019年10月に発生した台風19号によって、長野県では千曲川の決壊など、大きな被害が発生しました。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、被害発生直後から子どもの居場所づくりなどの支援を行いました。本年度は、再開した学校への支援、支援活動全体の検証などを行いました。

ウクライナ国及び周辺国緊急支援事業

Ukraine/Moldova

支援対象	ウクライナの国内避難民（子どもや保護者）、 モルドバのウクライナ難民（子どもや保護者）47,000名
支援規模	7,820,000円
事業期間	2022年2月24日～2022年9月30日

ア、子どもの居場所づくりなどに取り組んでいます。

さらに、同じくアライアンスのメンバー団体であるWeWorld（イタリア）を通して、モルドバのウクライナ難民に対する、食糧や物資の提供、現金支給、様々な情報提供などの支援を行いました。

3月末には、それまでの支援活動を通して把握することができた現地の人々の状況やニーズをもとに、チャイルド・ファンドとしてあらためて包括的な支援計画を策定しました。計画では、ウクライナ国内で26,000人、隣国のモルドバで21,000人に対し、総額7億円規模の支援を行うこととしています。

状況が長期化する中、次年度以降もチャイルド・ファンド・アライアンス全体で連携し、支援活動を継続していく予定です。

背景と事業目的

2022年2月、ロシア軍がウクライナへの侵攻を開始しました。軍事施設だけでなく住居や学校なども攻撃を受け、一般の市民にも甚大な被害が及んでいます。ウクライナ国内、近隣ヨーロッパ諸国へ避難をする人は一千万人を超えました。

現地では、食糧や医薬品が品不足となる、避難所の設備が不十分、戦争の恐怖で子どもたちの心が不安定になるなど、課題が山積しています。

チャイルド・ファンドでは、国内外で避難を続ける人々に対して、こうしたニーズに対応し、子どもたちと家族の生活を支える支援を行っています。

活動概要と成果

チャイルド・ファンドでは、ロシアの侵攻開始後すぐに、ウクライナ国内での支援活動を開始しました。アライアンスのメンバー団体であるチャイルド・ファンド・ドイツが、以前からウクライナ国内での支援活動を行っており、現地協力団体との信頼関係を築いていたことが、こうした迅速な対応につながりました。具体的な支援活動としては、食糧や医薬品の提供、避難所整備、子どもへの心のケ



避難所となっている学校へ避難する子どもたちと家族

広報・啓発・ 提言事業

チャイルド・ファンド・ジャパンは「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」というビジョンの実現のため、広報・啓発・提言事業を重要な活動と位置付けています。一人ひとりの子どもの権利が尊重され、守られるよう、団体や活動に関する情報を広く発信します。また、チャイルド・ファンド・アライアンスと協働して、世界各国の政府、国連機関へのアドボカシー（政策提言）の活動も強化しています。



OSEC(子どもへのオンライン性搾取)をなくすためのアドボカシー活動

2021年度は、広報・啓発・アドボカシー活動として、特にOSEC(子どもへのオンライン性搾取)の問題に力を入れました。

OSECはフィリピンなどの支援地域でも大きな問題となっていますが、日本国内においても深刻さを増しています。被害の低年齢化が進むとともに、グルーミング(性的な目的のために相手にやさしく接し、信頼関係を築くこと)といった手口も横行しています。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、2021年5～6月に、青山学院大学のサービス・ラーニングで実習活動を担当し、その中で学生の皆さんにOSECの問題を伝えました。この実習活動を通して、問題に強い関心をもってくれた学生の皆さんが、実習後もチャイルド・ファンド・ジャパンと一緒にOSECをなくすための活動に取り組んでくれることとなりました。

その後、2021年11月の活動報告会でこの問題を紹介するとともに、2022年2月にはOSECをテーマにしたウェビナーを開催しました。さらに同じく2月から、OSECをなくすための署名活動を開始し、政府への要望書提出を目指して、一般の方々へ協力を呼びかけました。4月には、OSECの問題を分かりやすく伝えるアニメーション動画も作成し、SNSなどで、署名の呼びかけとあわせ



OSECの問題を伝えるアニメーション動画

て公開しました。こうした活動を通して、最終的に署名は12,000件以上集めることができました。

次年度も、この署名の政府への提出、さらなる啓発・アドボカシー活動を続けていく予定です。

子どものセーフガーディングの取り組み

「子どものセーフガーディング」は、職員や現地スタッフといったすべての関係者が、団体の活動において子どもたちに一切の危害を加えることがないように徹底する取り組みです。これまでの取り組みの中で、基本的な制度や文書等が一定整ってきていることをふまえ、現在は、子どものセーフガーディングの考え方や取り組みが、日々の業務の中にしっかりと根付き、運用されることを目指して、活動しています。

具体的に、今年度は、東京事務所と現地事務所との間で、セーフガーディング担当者の合同会議を開催し、現地での取り組み



CAP研修では、ロールプレイなどをしながら学びました

をモニタリングし、懸案事項を議論するようにしました。

また、東京事務所においては、職員がJICA主催の連続研修に参加するとともに、所内においても、CAP(子どもへの暴力防止プログラム)の研修、性暴力とトラウマケアについての研修を実施し、セーフガーディングについての理解を深めるとともに、意

識を新たにしました。

年度の後半では、セーフガーディングに関する事案が発生した際の通報制度について、既存のフローチャートの見直しを始めました。次年度も検討を継続し、万一事案が発生した際にも、迅速に対応がとれる体制を整えていきます。

メディアへの掲載

今年度は、書き損じハガキや未使用切手の寄付による支援について、J-WAVE、TOKYO-FM、CROSS FMの3つのラジオ局の番組で取り上げられ、うち2番組では職員がリアルタイムで出演して支援を呼びかけました。番組内では、ハガキの支援だけではなく、チャイルド・ファンド・ジャパンの活動全般やスポンサーシップ・プログラムについても紹介しました。また、「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンについても、杉並区報などに掲載されています。

2022年3月から開始したウクライナ緊急支援については、テレビ朝日の報道番組で取り上げられ、WeWorld(イタリア)のスタッフがオンラインで取材に答え、現地の子どもの心へのケアの必要性などを訴えました。

同じ3月には、職員が執筆した記事がYahoo!ニュースで配信され、フィリピンで続く長期間の休校措置の実態を伝えました。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/15cc37d388896941977a0e30373301d2f5e9c43d>



テレビ朝日の番組に出演したアライアンスメンバーWeWorldのスタッフ

2021年度に活動報告を行った学校や団体など

ご支援、ご協力くださる学校や団体の皆さまに、活動の成果をご報告しています。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスのまん延により、動画をお送りしての報告が多くなりましたが、感染が落ち着いた時期には、職員が伺って対面での報告会を開くことができました。(以下の一覧には、動画報告、対面報告の両方が含まれています)

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------------|
| ・ 青山学院幼稚園 | ・ 梅光学院大学 | ・ 横須賀基督教社会館 |
| ・ 青山学院中等部 | ・ バット博士記念ホーム | ・ 横浜共立学園 |
| ・ 青山学院大学みどり会 | ・ 福山暁の星幼稚園保護者会 | ・ 酪農学園大学付属とわの森三愛高等学校 |
| ・ 浦和北東ロータリークラブ | ・ 福山暁の星小学校保護者会 | |
| ・ 恵泉女学園中学・高等学校 | ・ 北陸学院小学校 | (50音順) |
| ・ 生活協同組合パルシステム埼玉 | ・ 北陸学院高等学校 | |
| ・ 清心中学校・清心女子高等学校 | ・ 明治学院東村山高等学校 | |
| ・ 聖望学園中学校 | ・ 明治学院東村山高等学校 保護者会 | |

NGO・政府機関との連携・協働

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは他のNGOや関係機関と協力しています。

- | | | |
|-----------------------------|-----------------------|-------------------|
| ・ GII/IDI懇談会 | ・ JNNE(教育協力NGOネットワーク) | ・ 子どもに対する暴力撤廃のための |
| ・ JANIC(国際協力NGOセンター) | ・ SDGs 市民社会ネットワーク | グローバル・パートナーシップ |
| ・ JCC-DRR(防災・減災日本CSOネットワーク) | | (GPeVAC)日本フォーラム |

様々なご支援・ご参加方法

スポンサーシップ・プログラムへの支援

職場全体で、支店で、部署で、チャイルドの成長を見守っていただいています。



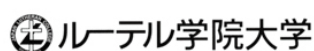
プロジェクトへの支援

新型コロナウイルス緊急支援として、支援地域での、感染症対策、食糧支援、子どもの保護、教育支援へご支援いただきました。



寄付つき自動販売機の設置で支援

自動販売機でお茶やジュースなどの商品をご購入いただくと、一定額が寄付されます。



その他のご支援

社員の方の寄付額と同額程度が会社からも寄付されるマッチングギフト制度、社員の方からのご推薦や社内基金などを通してご支援いただきました。



OKI愛の100円募金



ポイント寄付で支援

ポイントの寄付を通して、団体の活動全体へご支援いただきました。



身近にあるもので支援

・ハガキ/切手を寄付

全国の皆さまより総額3,584,648円分のハガキや切手をご寄付いただきました。

・古本/物品を寄付

古本または物品(ご家庭で眠っているお品物)を通して、それぞれ235,986円、62,340円ご寄付いただきました。

ボランティア活動で支援

41名のボランティアの皆さまに、ハガキと切手の仕分けや集計、翻訳や発送作業をサポートいただきました。翻訳作業は在宅でもご協力いただいています。

遺産・相続財産を寄付

ご自身の遺産やご家族からの相続財産を、「教育」という形で未来を担う子どもたちに贈ることができます。どうぞ事務局までご相談ください。

チャイルド・ファンド・アライアンス

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもへの支援に取り組む11の団体からなる国際的なネットワークです。子どもたちが本来備え持つ可能性を実現できるよう、貧困やその原因となっている環境を改善するために、70ヵ国以上で2,300万人以上の子どもたち、家族とともに活動しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月にチャイルド・ファンド・アライアンスに加盟しました。



グローバルキャンペーン、緊急支援を通して、アライアンスが協働

チャイルド・ファンド・アライアンスでは、5か年中期戦略(2020年7月～2025年6月)において、①グローバルなキャンペーンの実施、②一体として協働する組織文化の醸成、③政府・企業・財団からの助成金獲得能力の強化を進めています。

①について本年度は、キャンペーンの内容の具体的な検討を進め、「Web Safe & Wise」というグローバルキャンペーンとすることが決まりました。現在は、世界中どこでもオンライン化が進んでおり、子どもたちの環境も急速に変わってきています。このキャンペーンでは、1) オンラインによる子どもへの性搾取と性暴力から子どもを守る法律や政策が強化されること、2) 子どもがデジタル市民として健全に育ち、オンラインによる市民生活に安全に参加できること、を目指しています。具体的な取り組みは、2022年7月以降、各メンバー団

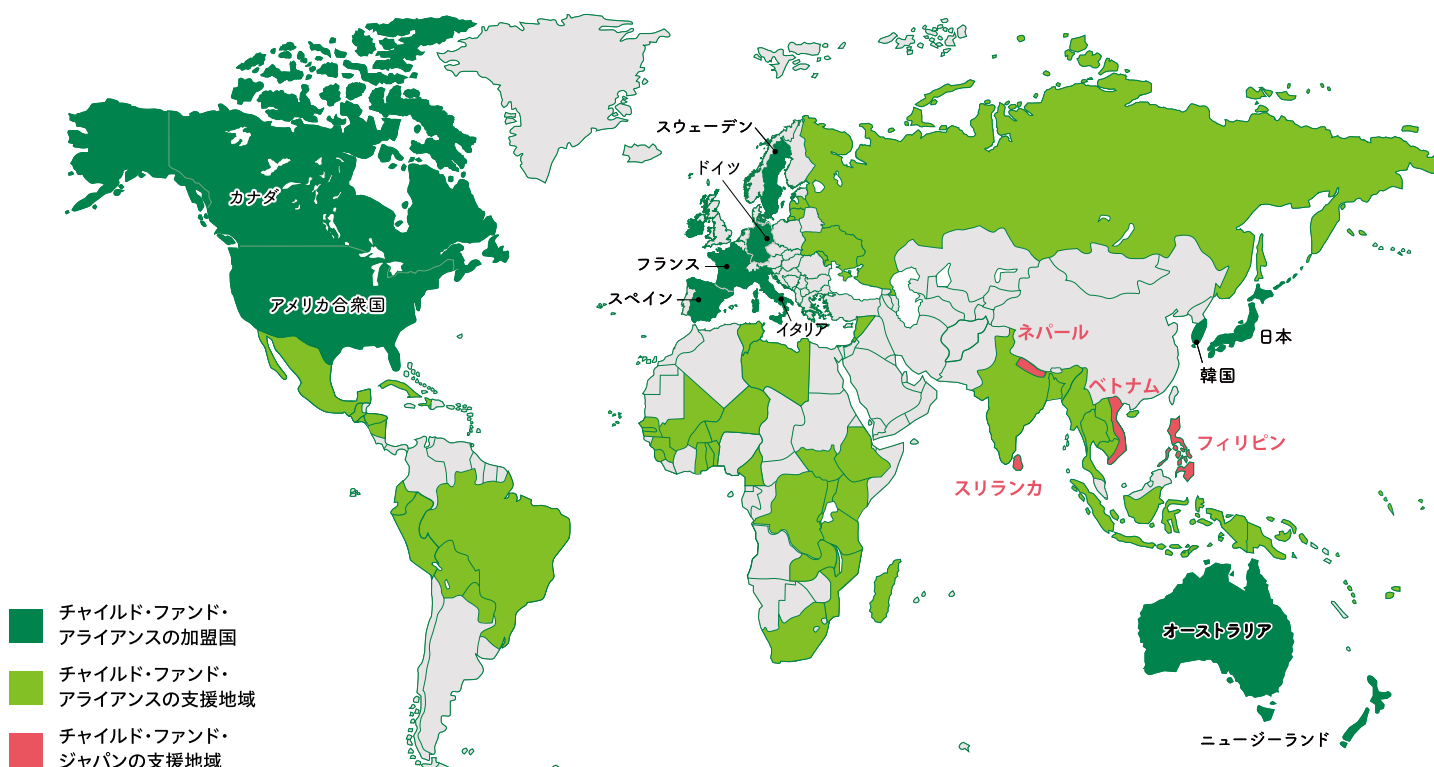
体と支援地域の現地事務所が協力して、支援事業・アドボカシー活動として展開していきます。

また、2022年2月からのウクライナ危機では、アライアンスでの連携のもとウクライナ国内と隣国モルドバでの緊急支援を開始しました。支援活動面、ファンドレイジング面、広報面において、今までにないアライアンスとしての協力が行われています。

なお、最も小規模なメンバー団体であったチャイルド・ファンド・アイルランドは、チャイルド・ファンド・インターナショナル(アメリカ)の傘下に入ることになり、メンバー団体は11になりました。



支援物資を子どもたちに配布するスタッフ

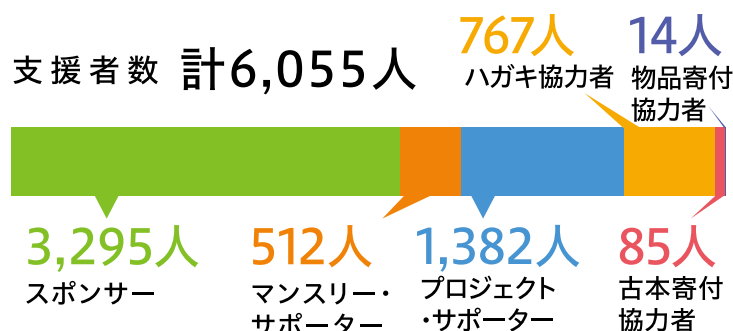


数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年

スポンサー、マンスリー・サポーター、プロジェクト・サポーター、ハガキ協力者、古本・物品寄付協力者としてご支援くださる皆さまと、フィリピン、ネパール、スリランカのチャイルドの数、支援を離れたチャイルドの数、決算報告の数字をまとめました。

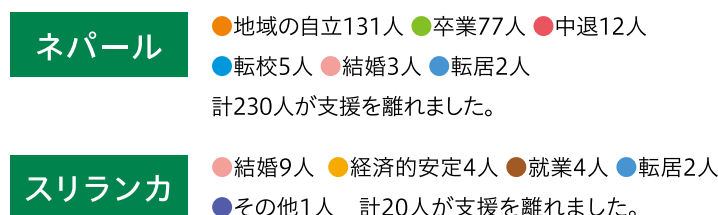
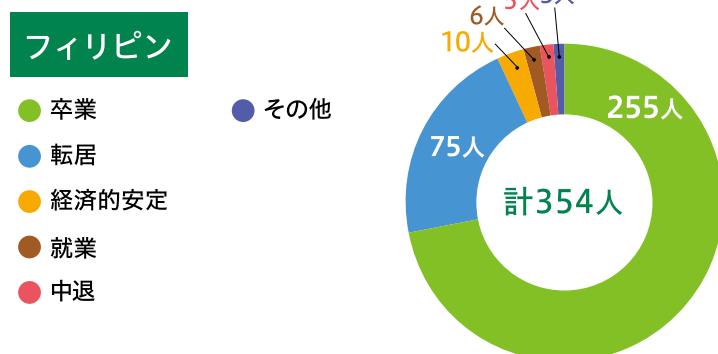
※数字はいずれも2022年3月31日時点

支援者数と支援チャイルド数



※複数ご支援くださっている方はそれぞれの支援方法でもカウントしています。

チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド (2021年度)

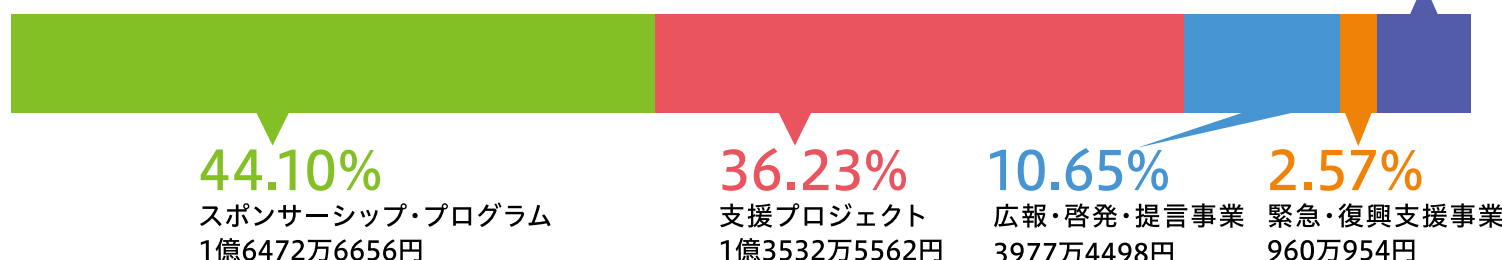


決算の概要

収入内訳 合計3億8151万8898円



支出内訳 合計3億7353万887円



2021年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、
1975年より、アジアを中心に貧困の
中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動を
しています。



Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ここに掲げるビジョン(目標)、
ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン 【目標】

すべての子どもに開かれた未来を約束する
国際社会の形成

愛のバトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変わり、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション 【使命】

生かし生かされる国際協力を通じて
子どもの権利を守る

子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

理 事 長 高橋 潤
事 務 局 長 武田 勝彦
所 在 地 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
T E L 03-3399-8123
F A X 03-3399-0730
E - m a i l inquiry@childfund.or.jp
U R L <https://www.childfund.or.jp/>



特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは、社会的責任を果たし皆さまからの信頼に応えるため、「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークを取得しました。

